

## 主体的に学ぶことができる生徒の育成

㊦ あずま中 橋本 一慶      矢田中 山田 航輝      平田中 錢上 昂汰  
一色中 鵜飼 務      助光中 小出 紘大

### 1 研究のねらい

めざましい科学技術の進歩により、社会は驚くべき速さで変わってきている。情報化、グローバル化が進み、チャットGPTなどの人工知能なども出てきている昨今、人工知能が人類を超えるのもすぐであると言われる。子どもたちには、こうした時代の変化を受け止め、未知の状況にも対応できる力をもつことが求められている。

新学習指導要領では、育てたい資質に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の三本柱を掲げている。この教育規準とともに定められた新たな規準である「主体的に学習に取り組む態度」は、これからの子どもたちが、身につけていくべき力であり、身につけなければならない力であるつながると考える。本グループの考える主体的とは、「教え、教えられたり、他者の考えに触れたりすることを通して、自らの考えを深める。そして、自らの学習状況に応じて、今後の学びにつなげようとする」こととする。これは、教師の説明を一方向的に聞くだけの一斉授業では達成することができない。特に関数の分野においては、主体的に学ぶことにより、新たな他の数量の法則や問題に気付くきっかけにもなり、非常に重要になってくる。

そこで、本グループでは、学びあいの場面と学びを振り返る場面において工夫を講じることで、主体的に学ぶことができる生徒を育成していくことにする。

### 2 研究の内容

上記のねらいにせまるために、次の2つの手だてを講じ、実践を進めていく。

#### 手だて① 学び合いの場面の工夫

ペアや班活動を取り入れつつ、座席配置を工夫したり、教材・教具を用いて、学習に取り組んだりすることで、互いに教え合いやすい環境を作っていく。そうすることで、課題を早めに終えた生徒は、仲間に教える活動を通して、課題に困っている生徒は、仲間から教えられる活動を通して、学び合いを進めることができるようにさせる。

#### 手だて② 学びを振り返る場面の工夫

振り返り用紙やシンキングツールなどを活用して、学びを振り返る場面を作る。この時間を通して、自分がどの程度理解しているかを把握させるとともに自分の考えを整理させるとともに、自らの考えを深めることができるようにさせる。